

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス リンク エイトⅡ		
○保護者評価実施期間	2026年 4月 1日		～ 2026年 4月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2026年 4月 1日		～ 2026年 4月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 5月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	将来の自立に向け、多様な体験活動や社会経験の機会を提供している。子ども一人ひとりの特性や状況に応じ、不登校支援や進路支援など柔軟な対応を行っている。	就労や進学を意識した活動だけでなく、自己理解や対人関係づくりにつながる活動も取り入れている。本人の「やってみたい」という気持ちを大切に、成功体験につながる支援を意識している。	地域の関係機関や学校、相談支援員との連携をさらに深め、卒業後を見据えた切れ目のない支援体制づくりを行う。
2	保護者勉強会や職員研修に力を入れている。公式LINEやHUGを活用し、日々の活動報告や相談対応を行い、保護者との共通理解を図っている。	保護者向けの勉強会や面談を定期的実施している。職員間でもケース共有や振り返りを行い、支援の質の向上に努めている。	保護者が気軽に相談しやすい環境づくりを継続し、ICTツールを活用した情報共有やアンケート実施等にも取り組んでいく。
3	女子支援に特化し、年齢や発達段階に合わせた支援を行うことで、安心して過ごせる環境づくりを行っている。	年間プログラムを作成し、継続的かつ計画的な支援を行っている。活動の中に、ハンドメイド・SST・クッキング・スキルアップ・理学療法士による専門的支援を組み込み、子ども達が様々な経験を積めるよう取り組んでいる。	子ども達や保護者からの意見も取り入れながら、より実生活や将来につながるプログラム内容へ発展させていく。専門職や外部講師との連携も継続し、支援の幅を広げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援計画や事業所の支援内容について、保護者への説明が十分に伝わりにくい、HUGを活用したデジタルサインへの移行に伴い、操作に不慣れた保護者にとって負担となる場合がある。	個別支援計画や支援内容について、説明のタイミングや方法が限られており、保護者が十分に質問や確認を行えない場合がある。保護者によってICT機器の使用経験や理解度に差があり、デジタル操作への不安を感じる場合がある。	HUGやデジタルサインの操作手順書を作成し、必要に応じて個別に説明を行う。 対面や電話、LINE等を活用し、保護者が相談しやすい環境を整える。
2	人員配置基準は満たしているが、利用児童一人ひとりに合わせた個別支援や柔軟な送迎対応を行っているため、状況によっては更なる人員確保が必要となる場合がある。	利用児童の特性やニーズが多様化しており、個別対応が必要な場面が増えている。学校や家庭の事情に合わせて柔軟に送迎時間やルート进行调整しているため、職員の動きが分散しやすい。	個別対応が必要な児童については、支援方法や対応手順を共有し、誰でも対応できる体制づくりを進める。パート職員や補助スタッフ等の活用を検討し、送迎や見守り業務の負担軽減を図る。
3	地域交流や地域活動への参加機会がまだ少ない。	事業所内活動が充実している一方で、利用児童によっては新しい環境への不安が強い場合もある。年齢的に思春期の時期でもあり、外部との交流や地域活動への参加に抵抗感を示すことから、参加率が下がる傾向がある。	交流を目的にしすぎず、地域イベントやボランティア活動への参加を通して、自然に地域とのつながりを感じられる活動を取り入れていく。